

## 103 東海学生駅伝と名古屋大学

近年、駅伝で名大の活躍が目立っています。今年も6月の東海地区選考会で1位となり、11月7日の全日本大学駅伝への2大会連続の出場を果たしました。また2005(平成17)年には、第67回東海学生駅伝対校選手権大会で「63年ぶり」の優勝をなしとげ、大きなニュースになったことも記憶に新しいところです。

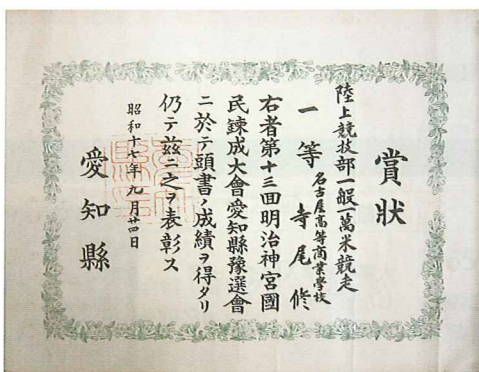
63年前という1942(昭和17)年です。もともと、1939年に創立されたばかりの名古屋帝国大学ではなく、経済学部的前身にあたる、名古屋高等商業学校の陸上競技部(当時は報国団鍛錬部陸上班)の優勝から数えてのものです。

名高商陸上競技部は東海の強豪として有名で、とくに1930年代は、全国高商大会では32年の第1回から3連覇、東海インターカレッジでは33年以降7回の優勝、名古屋学生陸上では30年から10連覇をほこりました。29年に完成した名高商の陸上競技場は、当時名古屋市唯一の公認トラッ

クで、ここでさまざまな大会がおこなわれるなど、名高商は東海地方のスポーツ振興の中心的存在でもあったのです。

そのような名高商ですが、1937年からはじまった東海学生駅伝では、第1回の2位が最高で、不本意な成績にあまんじていました。当時は「伊勢神宮熱田神宮参拝東海学生駅伝競走」が正式名称で、その名の通り伊勢神宮から熱田神宮までの8区129kmで争われました。現在は、知多半島一周コース7区約65kmですが、全日本大学駅伝が熱田神宮から伊勢神宮を走っています。

名高商が念願の優勝を果たした1942年1月11日といえば、日本がアメリカなどに宣戦を布告した1ヵ月後です。東海の学生駅伝は「大東亜戦争必勝祈願駅伝競走」として行われた44年まで続きましたが(この年は主催が東海学生陸上競技連盟ではないため東海学生駅伝の回数からは除外)、45~46年は中止をよぎなくされたのです。



- |   |   |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
- 1 名高商が優勝した第6回東海学生駅伝で名高商の寺尾 脩が獲得した区間賞盾(大学文書資料室所蔵、寺尾 脩氏寄贈)。現在、名古屋大学博物館企画展「響け!創統の鐘」で展示中。
  - 2 名高商の優勝を報じる朝日新聞(1942年1月12日)。現在は東海学生陸上競技連盟と中日新聞社が主催しているが、当時の主催新聞社は朝日であった。
  - 3 前年までの明治神宮国民体育大会から名を変えた、1942年の明治神宮国民錬成大会愛知県予選会の一等賞状(大学文書資料室所蔵、寺尾 脩氏寄贈)。
  - 4 「63年ぶり」の名大の東海学生駅伝優勝を報じる中日スポーツ(2005年12月5日)。